

法研論集第141号寄稿原稿一覧

氏 名	学 年	論 文 題 目
大庭 沙織	博士後期課程 1 年	認識面における故意の規範化
石 亜淙	博士後期課程 1 年	環境媒体を侵害する犯罪の保護法益
滝谷 英幸 (優先掲載希望者)	博士後期課程 1 年	「一連の行為」概念をめぐる思考方法(1) —「原因において自由な行為」及び「実行行為の途中における心神喪失」 を素材として—
小山 敬晴 (優先掲載希望者)	博士後期課程 2 年	フランスにおける代表的労働組合概念の変容(2・完)
朴 誌現 (優先掲載希望者)	博士後期課程 2 年	韓国老人長期療養保険法の立法過程に関する一考察(3・完) —韓国老人福祉法の史的展開を踏まえて—
木崎 峻輔	博士後期課程 2 年	正当防衛状況という判断基準について(2・完) —最高裁平成20年5月20日決定を契機として—
小代 久美子	博士後期課程 3 年	欧州人権裁判所における受理可能性の基準の一考察
謝 佳君	博士後期課程 3 年	中国近代刑法における共同犯罪
小谷 昌子	博士後期課程 4 年	近時の最高裁判例にみる医師の行為義務と医学的知見
志賀 典之	博士後期課程 4 年	18世紀末ドイツにおける「著作者の権利」の一断面(2・完) —翻刻論争とプロイセン一般ラント法—
徐 蘭花	博士後期課程 4 年	中国における涉外契約の準拠法に関する一考察
田川 靖紘	博士後期課程 4 年	正犯に関する 2 つのアプローチ
辻本 淳史 (優先掲載希望者)	博士後期課程 4 年	ドイツにおける刑罰と過料の構造と差異(4・完)
劉 建利	博士後期課程 4 年	安楽死をめぐる日中比較法的考察
李 艶紅	博士後期課程 5 年	EUにおける資本移動の自由原則の確立とその適用
北川 敦子	博士後期課程 5 年	刑法における自立概念(1) —被害者の承諾の観点から—
千國 亮介	博士後期課程 5 年	被害者の権利の憲法上の基礎づけ(2・完)
黒岩 容子	博士後期課程 6 年	EU法におけるポジティブ・アクション法理の展開とその意義(1) —性平等の分野に限定して—